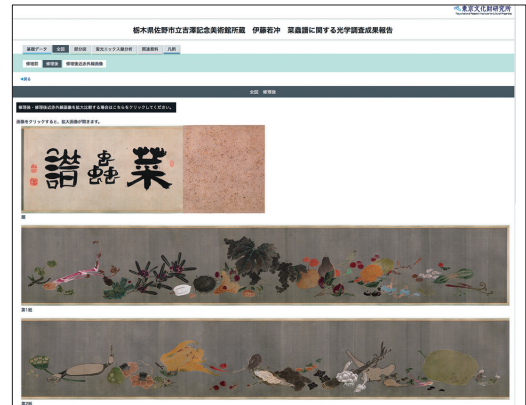


専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充(シ06)

目的 当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。併せてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。

- 成果**
1. アーカイブズ・ワーキンググループ協議会の開催
全所的に文化財情報を発信するため、4半期ごとにアーカイブズ・ワーキンググループ協議会を開催した(2018(平成30)年5月11日、6月14日、9月25日、2019(平成31)年3月19日)。成果公開のための情報の標準化・規格化を進めた。
 2. 刊行物アーカイブズ・システムを運用・評価し、継続的・安定的な研究情報の蓄積・公開を推進し、さらに所蔵資料の管理の効率化と情報発信力強化のため、新たに図書館システムを導入した。
 3. 明治・大正期刊の貴重書、写真資料のデジタル化推進
 - ・当研究所及び東京美術倶楽部所蔵の売立目録について、データ入力とシステム改良を行い、売立目録デジタルアーカイブを完成させ、公開の準備を進めた。
 - ・当研究所の所蔵する写真資料、近現代の美術作品カード(絵葉書資料)等のデータ入力を進め、公開のための準備を行った。
 4. 美術資料のデータ化と成果公開
薬師寺所蔵「国宝 吉祥天画像」および栃木県佐野市吉澤記念美術館所蔵「伊藤若冲筆 菜蟲譜」に関するデジタルコンテンツを作成し、所内公開を行った。
 5. 所蔵資料の保存と活用(田中一松資料の公開)
実践女子大学香雪記念資料館・京都工芸繊維大学美術工芸資料館「記録された日本美術史―相見香雨・田中一松・土居次義の調査ノート展」に協力し、田中一松資料を初公開したほか、口頭発表を行った。



佐野市吉澤記念美術館所蔵「伊藤若冲筆 菜蟲譜」のデジタルコンテンツ トップ画面

閲覧室事業の運営

1. 年度内資料受け入れ数
和漢書 3,833件、洋書 70件、展覧会図録・報告書等 7,092件、雑誌 1,647件(合計 12,165件)
2. 年度内閲覧室利用状況
公開日総数 137日・年間利用者合計 1,070人

- 論文**
- ・江村知子：「田中一松資料について」「記録された日本美術史―相見香雨・田中一松・土居次義の調査ノート展」シンポジウム 18.7.7
 - ・江村知子：「田中一松の眼と手―田中一松資料、鶴岡在住期の資料および絵画作品調書を中心に」第8回文化財情報資料部研究会 19.1.29

研究組織 ○江村知子、橘川英規、安永拓世、米沢玲、二神葉子、小山田智寛、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、吉田直人、早川典子(以上、保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、加藤雅人、西和彦(以上、文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務)、永崎研宣、片山まび(以上、客員研究員)